Map 13 土地利用の変化　森林、水田・農用地

森林

奄美群島の照葉樹林の大半は奄美大島と徳之島に分布しており、その 9 割以上の区域では、近年まで森林伐採が繰り返し行われてきました。

奄美大島では、1960 年代から 1970 年代頃にかけて伐採のピークがあり、その後も 1990 年代前半まで大規模な皆伐施業が続きました。しかし、1990 年代半ばには、輸入チップ材との競合による需要減少や、適齢伐期の森林の減少などの背景により、木材生産量が急激に減少しています。徳之島も同様に、1970 年代にチップ生産が行われましたが、現在は大規模な林業は行われていません。

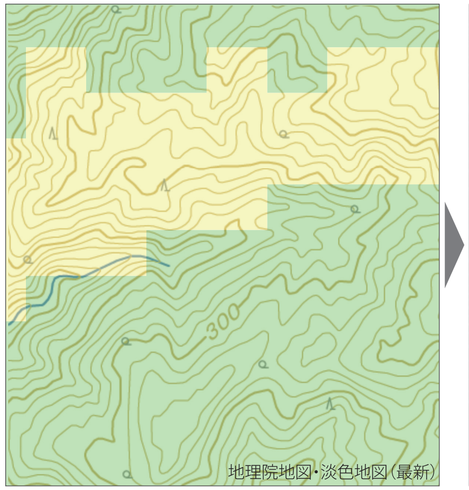
現在、1960 年代に伐採後成立した森林が 50 年生以上となるなど、森林の回復が見られます。

凡　例

- 荒地
- 森林

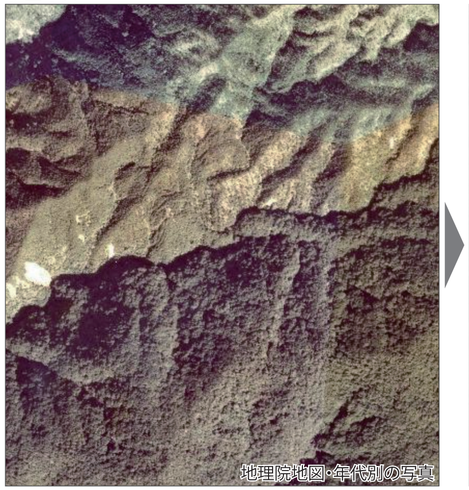
索引図：奄美大島

土地利用　1976（昭和51）年

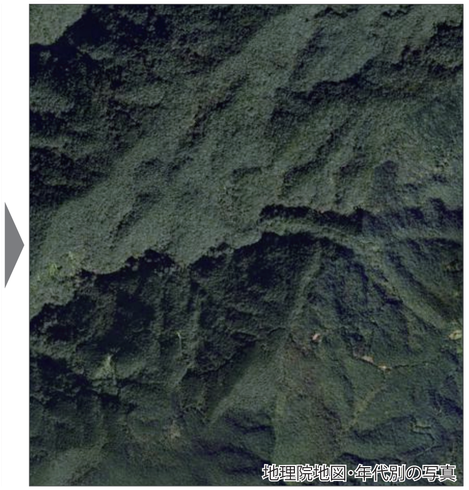


土地利用　2014年

航空写真　1974～1978（昭和49～53）年



航空写真　2008（平成20）年



N
0　100　200m

［参考］・杉村 乾「奄美大島の森林利用」森林科学　No.84 19-22（2018）
小野寺 浩「世界遺産奄美」南方新社
萩原 茂「奄美農業の変貌 ―作目の変化を通じて―」Japanese Journal of Farm Management 30 (3), 35-45, 1992

水田・農用地

奄美群島では、かつて稲作が盛んに行われており、今でも稲作を起源とする行事やお祭りが多く残っています。温暖な気候を利用し、米の二期作を行っていました。

しかし、1953 年の本土復帰後の奄美振興事業による農業基盤整備や、1970 年以降の減反政策などによって、サトウキビ畑などへの転換が進められ、1960 年には群島全体で 6,226ha あった水田は 2015 年には 8ha と激減し、稲作は消失に近い状態になっています。

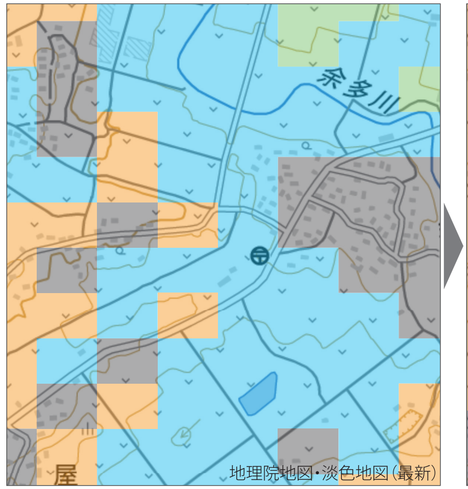
沖永良部島では、1965 年以降、水田転換や区画整理などの事業が導入され、稲作をやめる農家が増え、農作物が米からサトウキビ、ジャガイモなどに転換されました。

凡　例

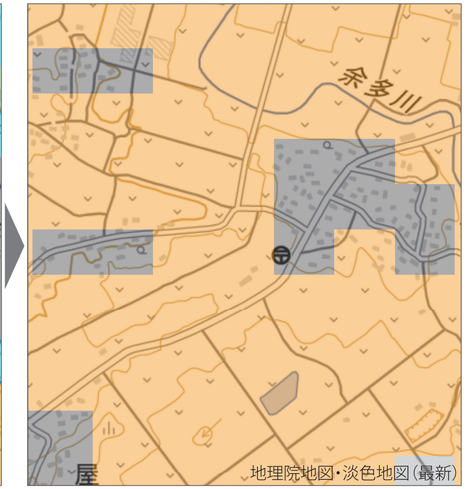
- 田
- その他の農用地
- 森林
- 建物用地,道路
- その他の用地

索引図：沖永良部島

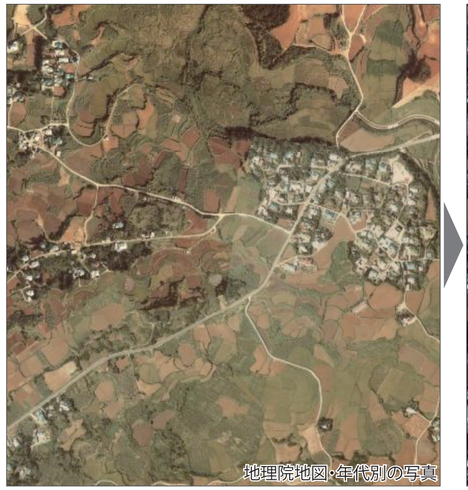
土地利用　1976（昭和51）年



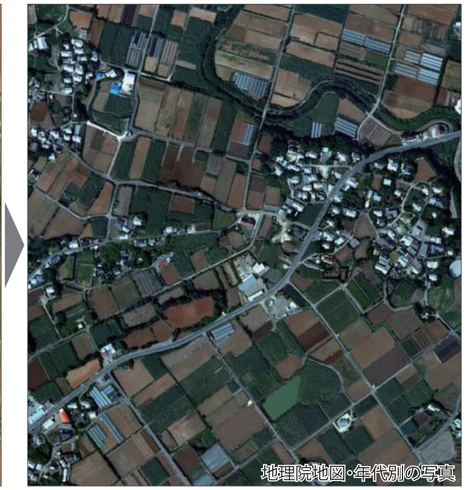
土地利用　2014（平成26）年



航空写真　1974～1978（昭和49～53）年



航空写真　2008（平成20）年



＊測量法に基づく国土地理院長承認（使用）　R 5JHs 80

［出典］・土地利用　「国土数値情報（土地利用細分メッシュデータ）」（国土交通省）
（https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-L03-b-v3_1.html）
・航空写真　「地図・空中写真閲覧サービス」（国土交通省）
（https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1）
・背景図　地理院タイル（淡色地図）

N
0　100　200m